

平成19年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第5回勉強会の結果概要

1. 日 時 平成19年12月17日(月) 18:00～20:20
2. 場 所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 26名(委員8名、一般2名、区市6名、関係者5名、事務局5名)
4. 座 長 遠藤茂勝委員
5. 次 第
 - 1) 景観アンケート調査の因子分析結果
 - 2) 景観アンケート調査の自由記述意見のまとめ
 - 3) バリエーション検討スケジュール
 - 4) その他

6. 概 要

1) 景観アンケート調査の因子分析結果

◇千葉大学大学院宮脇准教授による因子分析結果についての講演

(宮脇准教授が作成したPPT資料を使用し説明)

- ・“塩浜地区を訪れたことがある人”と“訪れたことがない人”とでは、回答の傾向が異なっている。
- ・“全回答者”921名に関して因子分析を行ったところ、因子No.1は「楽しみ・親しみ」、因子No.2は「安全性」、因子No.3は「デザイン性」、因子No.4は「自然性」と範疇化され、寄与率はそれぞれ、29%、21%、18%、14%であった。
- ・“塩浜地区を訪れたことがある人”500名に関して因子分析を行ったところ、因子No.1は「自然性」、因子No.2は「親水性」、因子No.3は「安全性」、因子No.4は「デザイン性」と範疇化され、寄与率はそれぞれ、23%、21%、20%、19%であった。
4つの因子がほぼ同じ寄与率であり、全ての因子軸の説明力が高く、バランスのある整備を求めていると考えられる。
- ・“塩浜地区を訪れたことがない人”421名に関して因子分析を行ったところ、因子No.1は「良好性」、因子No.2は「安全性」、因子No.3は「シンプル性」と範疇化され、寄与率はそれぞれ、41%、21%、14%であった。
良好性というキーワードへ集約されていることが読み取れる。
- ・皆の意見を聞くのは重要である。現場を観たことが意志決定に大きな影響を与えている。
- ・SD法での評価に関して、下記により再評価してみるとよい。
 - ①全体平均を出してみる。
 - ②因子軸毎に整理し直してみる。
 - ③今後の課題を確認する。(“自然的な”、“防犯上安全そうな”などの評価が低い。)

- ・まとめ
因子分析の結果、全体回答として①「楽しみ」「親しみ」②「安全性」③「デザイン性」④「自然性」が因子軸として表れている。
- ・自由意見の多くは利便施設であり、①「楽しみ」「親しみ」②「安全性」に含まれている。また、少数だが後背地の街並みについてやコストに係る意見もあった。
- ・その他の検討例としては、コンジョイント分析が挙げられる。大学の研究室で、コンジョイント分析を実施してみようと考えている。本来は県で実施すべきだと思うが、難しいのも理解できる。

◇主な意見

- ・説得力のある分析結果が出ているように思う。
- ・背後の状況によっては評価が違ってくるはずであり、今後の課題である。
- ・“塩浜地区を訪れたことがない人”に関する因子分析結果の因子 No. 1 は、「良好性」に範疇化されたのではなく、具体的に分類ができていないということではないか。
- ・因子得点プロット図において、「デザイン性」と「自然性」の因子得点は“H18年度護岸改修イメージ”で 0.4 である。これを 1 に近づけるためにはどのような形になるのか、今後のバリエーションの検討につながっていくことになる。

2) 景観アンケート調査の自由記述意見のまとめ

◇資料 2 により事務局から説明があった。

◇主な意見

- ・植樹などに係る意見は「自然性」に、防護柵に係る意見は「安全性」に分類してはどうか。因子分析結果に基づき分類するとよい。

3) バリエーション検討スケジュール

◇資料 3 により事務局から説明があった。

◇主な意見

- ・後背地の街づくりは、どのような制度を使用して誘導するのか。
→市川市回答
地区計画制度、再開発等促進区制度で誘導していく方針であり、平成 21 年度の工事着手を目指している。事業手法はこれから検討していくこととしている。公募はまだ行っていない。
- ・漁港地区の隣接部とのすり付けについて、バリエーションの検討をしないといけない。
→市川市回答
2 丁目の護岸と調整を図ることは必要と考えている。
- ・塩浜 1 丁目の漁港区域はどこまでか。
→市川市回答
2 丁目との境から 900 m が漁港区域である。

- ・漁港の整備箇所はどこか。

→市川市回答

900mの漁港区域内で整備する。(沖合方向200m内)

- ・「湿地再生の場」の整備について、三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会及び市川市と調整していく必要がある。
- ・募集要項は公表してもらえるのか。

→事務局回答

募集要項については、事前に護岸検討委員会へ提示されることとなっている。手続きを踏んで進めていきたい。

- ・街づくり2期地区の道路形態は、変わる可能性があるのか。

→市川市回答

変わる可能性はあるが、基本的には既存の道路を生かしていくものと考えている。

4) その他

- ・公開生物調査を1月25日(金)午後に実施予定。
- ・第18回護岸検討委員会を1月25日(金)に開催予定。